

# 広報特別委員会記録

(付議事項 2)

令和 4 年 7 月 2 6 日

【開催日】 令和4年7月26日（火）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午後0時5分

【出席委員】

委員長	森山喜久	副委員長	福田勝政
委員	大井淳一朗	委員	奥良秀
委員	笹木慶之	委員	中岡英二
委員	宮本政志		

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】 なし

【執行部出席者】 なし

【事務局出席者】

主査兼議事係長	中村潤之介	議事係書記	若野みちる
---------	-------	-------	-------

【審査内容】

- 1 議会だより第66号の校正について
- 2 議会だよりの編集について
- 3 その他

---

午前10時開会

---

(付議事項1)

---

午前10時39分休憩

---

---

午前10時49分再開

---

---

午前11時

---

(付議事項2)

森山喜久委員長 続きますして、2の議会だよりの編集についてです。またすぐ、9月議会が始まっていきますけれど、議会だよりの編集の方向性ですね。今、表紙を含めて特集号、委員会レポート、一般質問、各委員会からの報告等があればそちらを載せていく編集をさせてもらっていますが、これまで議会だよりを発行した中で、ちょっとここを改善したほうがいいんじゃないかとか気付きとかがもしあれば、御意見を頂きたいと思いません。

宮本政志委員 今、委員長が言われた議会だよりに固執することに少し疑問あります。議会広報の充実っていうのが議会基本条例第26条に載っていますけども、議会だよりだけがこの広報特別委員会の広報活動じゃなくて、そもそも、広報特別委員会としてどのような広報活動をしていくかっていうことを、発足して議論が全くできていないんですよ。いつかの委員会では、いろんな案みたいなものも出ているんですね。ですから今後の広報活動っていうものを、基本条例とかいろんなものにのっとった前提で議論して、そしてその中の広報活動の一つのツールとして議会だよりがあるんで、それから議会だよりを今後どうしていきましようかっていうことも、考えていかないとですね。今、議会だより1本で編集をこれからどうしましようかっていくと、いかがなものかなと思うんですけど、その辺りはどう思われますか。

森山喜久委員長 議会基本条例の関係を含めて言えば、やっぱり広報活動、様々な議論して行って、取組を進めていきたいとお話しさせてもらった中で、今、少し変わってきたのが、マチイロアプリを入れたこととFMスマイルウェブを入れていくことですが、それ以外のところの議論は御指摘のとおり進んでいないので、そちらの議論はしていかなければいけないと思っています。

宮本政志委員 私が言いたいのは、第26条に議会は情報技術の発達を踏まえた多様な広報手段を活用することにより——これはデジタル化推進特別

委員会が絡んでくると思うんですよ。多くの市民が議会と市政に関心を持つよう議会広報活動に努めていきますよってというふうに、広報の充実というものをどのようにやっていくのか、深い議論を広報特別委員会でやっていく。例えば、市議会モニター制度に対することは広聴特別委員会でしょう。しかし、市議会モニターの職務とか市議会モニターの設置の趣旨は当然、議会運営に絡んでいますから、広報特別委員会にも絡むわけですよ。ですから、私はそういった市民の意見を広く聞いたり、こちらは広報特別委員会ですから、議会活動とか運営を発信したりしていく立場ですけど、例えば市議会モニターを呼んで、市議会モニターの意見も聞く、あるいは意見交換をする、広報特別委員会でも、制度に関してはいけませんよ、広聴特別委員会ですから。そういったことも含めた議論をしていくべきだと、さっき言ったんですけどね。

森山喜久委員長 以前、広聴特別委員会で市議会モニターに向けてアンケートを取ったのを、逆に今度、広報特別委員会として市議会モニターとの意見交換を行っていくべきではないかという提案と理解していいですかね。（発言する者あり）今、議会だよりの編集という話の中で、広報活動自体の議論という話になりました。そちらの広報の充実という議論を進めていきたいと思いますがよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）今、宮本委員から市議会モニターを活用していくという御意見がありました。それも踏まえて、皆さんからこういう活動もできるんじゃないかというのも、意見があればお話を……

奥良秀委員 以前からも言っているんですが、今、議会だよりが広報特別委員会の1本柱になっており、今期から少しずつラジオも入れていったりとかしている中で、ぼちぼち、前から言っている議会だよりの検証ですよ。アンケートを取られて、どういうふうにされているのかっていうのを、やはり一度調べられたほうがいいのか。今回ラジオも入ることであれば、今まで議会だよりは見ていない人でもラジオは耳から入ってくるので、そういうところにも気を取ってもらえる人もいるかもし

れない。今は、アンケートを取るにはちょうどいい時期に入ってきているのかなと思いますので、その辺もどういうふうなアンケートの質問等々、アンケートの取り方等々、議論していったほうがいいのかと思います。

中岡英二委員 私も奥委員の言われたことと全く同じことを考えていました。たしかに、今、主な広報活動は議会だより、これだけの税金を使って、委員でこれだけ討論して、どれだけの方が議会だよりを読まれているのかが一番関心がありました。今言われたように、アンケートを一度取ってみて、アンケートもそんな難しく考えないで、この委員会の中で、何人か限定して取っていただいて、その読まれていない理由をはっきりと知っておきたいし、そういう意見を頂きたいと思います。そしてさっき市議会モニターの趣旨ということで、市議会モニターとも議会だよりに関することとかの感想があれば、聞いていく時期じゃないかなあと考えております。今、確かにいろんな取組をされていますが、やはり柱となる議会だよりの再度の検証ではないかなと私は思います。以上です。

宮本政志委員 少し、委員会の流れを気を付けないといけないのが、私がさっきから言っているのは、例えば、議会の活動原則、開かれた議会を目指しましょうとか、議会運営に関して市民の関心が高まるように分かりやすい視点とか、いろいろこううたってあるわけです。だからそういったことを前提とした広報特別委員会の活動を今後どういうふうに行っていくんですかっていう議論と、FMとか議会だよりとか、あるいはどれだけ読まれているかのアンケートっていうのは、これ一つ一つのツールのことなんですよね。それを一緒に議論していくと、收拾つかなくなると思うんで、ツールはツール、その一つのツール、議会だより、FMとかいろんなツール、例えばジャンパー着てどうこうとか、そのツールはツールで一つ一つまた精査していけばいいと思うんです。ただ、広報特別委員会が今後、議会基本条例等にのっかって広報特別委員会としてどういう広報活動をしていくかと、そういった議論に分けてやっていかんと、

ツールと委員会としての活動を全部一緒にしてやっていくと收拾つかなくなると思いますよ、委員長。もっと言えば、広報特別委員会を今後どういうふうに進めていったらいいのかという議論していく中の一つとして、市議会モニターをお呼びして、市議会モニターから意見を聞くような意見交換もいいんじゃないんですかっていうお話をしたんです。そうするともっとそこから議論が深まるんじゃないか。市議会モニター制度には設置要綱があるので、例えばそういった議会だよりと違っていうのを、これせっかく今始まっていて、もうツールですから、これをやめていくわけにはいかんと思う。だから、正確にそういったものを定めていくとかね。広報活動が始まって半年たつんですから、広報特別委員会として、どういうふうに方向性持っていくかをもう自由討議でもかまわんと思うんだけど、やっていかんと。ただ、議会だよりを毎回やっていきましょう、議会だよりだけやったら、広報特別委員会の目的、趣旨としてはもう達せられたんだという前提でいってしまうと、最初の頃の委員会でいろんなツールを話し合っていましたよって言ったことが全く度外視されるんで、その辺りの委員会運営に対して、委員長に先ほどから言っているんですけどね。

森山喜久委員長 宮本委員が言われる議会基本条例第26条のところですね……（発言する者あり）全部ですね、失礼しました。10分休憩し、25分から再開ということで、一旦休憩します。

---

午前11時15分 休憩

---

---

午前11時25分 再開

---

森山喜久委員長 再開させていただきます。議会だよりの編集という項目から全体的に見ていくべきではないかと。どのような広報活動をしていくのかっていうのを再度見直すべきじゃないかという意見の中で、今、話が進んでおります。やっぱり多くの市民の方に関心を持っていただく議会

の広報活動と考えたときに、やはり市議会モニターとの意見交換、意見を聞くことが必要ではないかとの意見を頂いております。これについて皆さん方から御意見があれば教えていただきたいんですが。

宮本政志委員 この付議事項の議会だよりの編集について、今から議会だよりをどういうふうな編集していきましようかって、委員長がこの付議事項2に持ってこられたわけですよ。例えば、基本条例の前文に、まちづくりの主体である市民の多様な意見を的確に市政に反映させるため、その後も続くけど、そういったことを前提とした、今後、議会だよりをどうやって編集やっていきますかっていう付議事項を議論するには、例えば、市民の方から議会だよりに対するいろんな意見を聞いて、そして、どういった編集をしていくかって議論に入っていくかと。その一つとして、例えば市議会モニター制度っていうのがうちにはあるんですから、市議会モニターと意見交換して、そしてこの議会だよりの編集に生かしていけばいいんじゃないんですか。付議事項にのっとるんであればね。それとはまた別に、今後の広報特別委員会の広報活動としたらどうなんですかって、そういった議論をきちっとしていかと、いきなり編集を今後どうしますかって言ったって、市民を置き去りにした、議論した議会だよりになっていくんじゃないんですかという趣旨です。

森山喜久委員長 今のこちらの取組を見つめ直すためにも、市議会モニターと意見交換をという話で、ほかの方から議会だよりの在り方を含めて、アンケートも含めて検証が必要ではないかという話もあるんですけど、まずは、市議会モニターと意見交換する方向性が必要ではないかという意見であると思っています。それを踏まえて進めていく方向性で、皆さん方よろしいですか。

笹木慶之委員 あえて今、宮本委員が言われたんだけど、委員長がそれを受け止めておられんような気がします。だから、あくまで方法論をこれからどうしようかという今議論をしていく中での一つの項目として挙げられ

たわけよね。だから、いろんな項目があるけど、その1項目をどうするかちゅうことやなしにまだほかにもあるかもしれない。まずその辺を整理していかないと、整理されんままに1か所に集中していったって、話が進まないじゃないですか。例えば、他の議会の広報委員会はどういう状況であるのかということも、やはり参考にもすべきだろうし、それから、先ほどあったように、広報が本当に市民の方に読まれているのかどうかというアンケート、どこにあい路があるのかということを見た中で、本当にいい広報、いわゆる市議会の広報としてどうあるべきかというところを、今からやっていくわけでしょ。それならそのように話を進めていかんとやね。今、そこの1点でとどまったってしょうがないじゃないですか。ほかのことを含めた協議じゃないとですね。その中の一つということという発言が先ほどあったと思いますよ。だから、そのように進行してもらいたいと思います。この会議の中身が違うということ、私思ったんだけど、ただ宮本委員の切り口からしてみると、なるほどそういう形の見方があるなと評価しました。それはただ単に、議会だよりの編集についてということだけにこだわって話をしたって、議会本来の目的から逸脱することになるという方向性が見えるので、したがって、それをよくするためにはどういうことが考えられるかということの一つですね。だから、それについては、やはり今までのものをしっかり反省するという手法があるだろうし、それから、反省するには、いろんな人の意見も聞かんにゃいけないだろうし、また、それ以外には、いわゆる広報特別委員会として取り組むべき課題があるのかないのか、その辺のところを言われたと思うんですよ。それなら話は分かると思って、話はそうかなと思ったら、またそこの1点に集中してくるから。今はそういう時期じゃないんじゃないかと思うんですよ。今日の会議は、その時期がまた近く来ると思いますけど……

宮本政志委員 近々来るんじゃないくて、今、付議事項で議会だよりの編集についてって委員会にかけられたわけですよ。さっきから言っているでしょ。他の市議会とか、他の議会の広報活動も参考資料でしょう。しかし、

今本市の市民の中に市議会モニターがいらっしゃるわけです。市議会モニターは、市議会の活動とかに関する意見を当然言われてもいい立場の方ですから、この議会だよりについて、今、どういうふうに見られていますか、あるいは改善点はどうなんでしょうかという意見、あるいはアンケートというツールとか、そういったもので議会だよりの今後の編集についてっていうことを議論していかないっていう意味なんですよ。そこと、この議会だよりの編集以外の広報特別委員会としての活動と全部一緒にしたら議論がおかしくなりますよ。さっき笹木委員が言われることってというのは、そういった他の議会がどうこうとか、こうこうとか、今は時期じゃないとかじゃなくて、議会だよりの編集を今後どうしますかって付議事項なんだから、私はその編集について議論するのであれば、市議会モニターの意見を聞くというのも一つのツールでしょってことを言っているんです。

福田勝政副委員長 第66号ですよ、この度ね。ということは66回出しとるわけですよ。今言われた問題点は、初めから分かり切ったことじゃないかなと思うんですよ。（発言する者あり）今いろんな人にこの意見を聞くとか、市議会モニターに聞くとか言われていますけど、この議会だよりは、1号、2号、3号は反省点として、そういう問題はもう初めからあったことじゃないですかね。今、66回ですよ。（発言する者あり）66号ですよ、今回作るのが。1号から66号の間に、いろんなことがあったと思うけれど、今の問題点は、もう初めから皆さんの意見を聞きながら作っていくというのが1番大事なことじゃないでしょうかね。それを今、66号になって、またそれをやるってというのは、もう初めから分かりきったことじゃないかと、いつもこの問題点が出るんじゃないですよ。（発言する者あり）

笹木慶之委員 先ほど言っているように、正確に伝わってないようですが、私は決してその一つのツールをうんぬんというわけじゃありません。やはり反省するということには、いろんな課題があるわけで、今それをやっ

ているじゃないかと言っているわけ。だから、宮本委員は今の市議会モニターということでは言われました。私も別段、それは否定しません。賛成します。そのことについてはね。だけどまだいろんな手法があることについて、今そのメニューをかけながらやっていったほうがいいんじゃないかということを行っているわけ。そのことだけで賛否を取られるから、そうじゃなしに、それはメニューの一つであって、だからそれをもう少し広げて行って、だから、アンケートもあるだろうし、市議会モニターにもアンケートの実施方法で答えてもらうかもしれない、分からんじゃないですか。皆一緒に大事な意見やからね。それには、やはり、今まで言われた委員の意見を踏まえながら、そして、やっぱりよそも議会の一生懸命やりよるわけだからね。案外私も気が付かないところに、なるほどなというものがあるかもしれないから、やっぱりそういったものも調べていく必要があるんじゃないかと。だから私は窓口を広げて、より良い議会だよりの編集に向かっていくうちゅうことについては、全面的に賛成ですから、それにしてほしいと思います。今日はその段階ではないでしょうかということですよ。

森山喜久委員長 市議会モニターから意見を聞くというのも一つの手法ですし、もともと出ておったアンケートを取るというのも一つの手法であると思います。例えば、議会だよりの編集についても、市民の目線から見た、みんなが見る市議会だよりにしていくこと。そして、私たち市議会の広報特別委員会が求めていくものということを知るためにも市議会モニターとの意見交換とか、アンケートをしていくことは必要になっていくと思います。それ以外にもほかのメニューもあるんじゃないかって話もあります。また、そのツールとしてどういったものがあるかということについて、また皆さん方からも意見を頂きたいと思います。

大井淳一郎委員 まず、今、付議事項2番で議会だよりの編集についてとなっていますので、まず議会だよりの編集についてやりましょう。宮本委員が言われるように市議会モニターを活用したらどうかということも含

めて、まずそこをやって、今後の広報活動については、次の話ということで分けてやりましょう。まず議会だよりの編集を今後どうするかということですよ。今、宮本委員とかが言われている市議会モニターの活用、議会広報を読んで、意見を求めるというのは、市議会モニターの職務の中にまだ生きちよると思うし、利にかなっていると思います。そういうのを入れてはどうかという意見が出ていますので、今後の議会だよりの編集について、まず付議事項をまとめてやりましょう。

森山喜久委員長 今、大井委員が言われました、今後の議会だよりの編集、宮本委員も言われました市議会モニター制度の活用という形で進めていくというのが一つの手法と思います。そちらについて基本皆さん方、市議会モニターを活用していくという形について、御意見とかですね……(発言する者あり)

大井淳一朗委員 もちろん市議会モニターの活用はしていくってことなんですけど、市議会モニターを活用しましょうだけで終わっては、ちゃんと詰めておかないといけないので、そこまでやらないといけないかなと思います。

福田勝政副委員長 僕たちは広報特別委員会で……僕は3回目ですけど、僕たちが一般市民の立場になって考えるのと、市議会モニターの考えはそんなに違わんと思うんですよ。ただ、今、見る人がどれぐらいおるのかなと。これが一番肝腎なことであって、さっきも言われましたけど、アンケートは大事なことじゃないかと思います。僕が一番今言いたいことは、僕たちが一般市民になって、どういうものを出したら皆さんが読むのか。それは、市議会モニターが思うことと僕たちが思うこととそんなに変わらんじゃないかと思うんですが……

宮本政志委員 今、副委員長がおっしゃったことも含めて、だからこの付議事項の議会だよりの編集についてで、いやいやアンケートをまだ取らなく

ても、あるいは別に市議会モニターから意見聞かなくても、そういったことをせずに、今後の議会だよりの編集について議論しましょうよって委員会であれば、編集について付議事項2に沿って議論に入ればいいんですよ、今後の編集について。ただ私は、今後どういうふうに編集していくかという議論をする材料として、一つの手法として市議会モニターとの意見交換はどうですかってさっき言っただけです。中岡委員が言われた先ほどアンケートっていうことも重要です。これごもっともと思う。奥委員は、FMのことも言われた。だから、そういったことは後にして、まず編集について議論しましょうってなるのか。編集について議論するんであれば、どういったことをやってから、編集について議論していきましょうってその後の流れっていうのを、きちっとやっていかんと。さっき大井委員が言われたような話これきちっと一つずつ分けてやっていかんと進みませんよ、委員長。だから別に市議会モニターのことだけじゃない。どういうふうに編集していきますかと議論する中で、市議会モニターからも意見を聞いてみたらどうでしょうか。ほかにも指標があるのであればそれを出し合って、これをやりましょう、どういうふうにやりますか、具体的に、そして、それをいつ頃やりましょう、そしてそれをもって今後の議会だよりの編集について議論していこうというふうな流れなのか、その辺り委員長、ちゃんと進めてもらわんとおかしくなりますよ。

森山喜久委員長 議会だよりの編集を進めていく上で、市議会モニターの活用、アンケートという御意見がありました。その中で、議会だよりの編集作業をする上で、やはり市民からの意見というのは聞いていく必要があると、私自身認識していますが、皆さん方、どうお考えでしょうか。

中岡英二委員 議会だよりの編集についてということで話をすれば、やはり、先ほど言われたように市議会モニターの意見を聞いてそれを編集の参考にするとか、今、ユーチューブでたしか配信していますよね。そういった御意見も参考にしながら、要は編集というのが、やはり議員目線にな

ってはいけないというのが一つあると思うんですよ。だから、そういう市議会モニターの意見も聞きながら、ユーチューブの御意見を聞きながらやればいいと思います。それが、以前は議会報告会とかで意外と市民と接する場面があったけど、今そういうのがなくなっていますからね。そういう、落ち着いてくればもっとほかの大学に行ってそういう意見を聞きながらやってもいいし、これは広聴特別委員会との兼ね合いもありますからね、広報特別委員会だけではいかないこともあるんですよ。だから今のところできることは、今言われたような市議会モニターの意見を聞くとか、アンケートを取って市民の意見を聞くとか、そうした中で、編集イコール議会だよりを充実していくという、そういう新しいツールっていうのは私の頭の中ではちょっと出てこないですけど、今、言われた意見の中で、そういうのを参考にしながら編集していったらいいんじゃないかなと思います。

森山喜久委員長 実際アンケート等の関係の部分で言えば、臨時号という形で配布していくことはちょっと厳しい状況なのかなと思いますんで、11月15日から2月15日号の議会だよりの中で、議会だよりについてのアンケートを配布して、回収していくっていうのは一つの方策かと思います。差し当たり、議会だより編集の充実を求めていくことであれば、最初に市議会モニターと意見交換を行っていくっていう、あとユーチューブの意見を拾っていくことが、最初に収集しやすい情報だと思います。そういう形をもし取るのであれば実際、ユーチューブでアンケートとか意見集約する形って今なっているんですかね。

大井淳一郎委員 一応概要欄でアンケートに飛びます。ただ問題点は、PDFが出てきて、そこに書き込みしてFAXしないといけないから、誰も回答しないという問題点はあります。これは広聴特別委員会の話なので、これ以上は言いませんが、改善すべき点はあるかと思います。今、一応アンケートは取る形にはなっています。

奥良秀委員 市議会モニターの職務としては、意見を出してもらうことだけではなくて、こちらからのお願いでアンケートを取ったりとかっていうことも、たしかできるようになってきていると思います。今ずっと話を聞いていると、こちら側から、すぐすぐ市全体のアンケートは難しい状態だと思うので、市議会モニターに対してどういったところの改善点とか、どういう感想があるのか、1回聞いてみたらいいんじゃないですかね。それで、この委員会で、アンケートを持ち寄っていろいろと議論を深めていけばいいのかなと思います、いかがですかね。

大井淳一郎委員 窓口は広聴特別委員会だったんですけども、改選前に市議会モニターに意見を求めました。その中では、市政に関することのほかに、議会だよりに関するアンケートも取っていますので、その項目も参考にして今、奥委員が言われたように、まずは市議会モニターから意見を頂戴するようにされると良いと思います。以上です。

宮本政志委員 奥委員と大井委員が言われたことが本当ごもっとも。そうであるならば、市議会モニターから見たら広聴特別委員会だの広報特別委員会だのデジタル化推進特別委員会だのは、正直関係ない。議会全体ですから。今度は広聴特別委員会とも合同で例えば市議会モニターに広報活動、広聴活動についての意見交換ということも視野に入れてもいいと思う。でない、大井委員と奥委員が言われたように、こっから先は広聴特別委員会ですね、ここまでは広報特別委員会ですねとなってしまうと、また議論に少し線をしてしまうようになるので、その辺りっていうのも今日もう少し深めてね、そしてスピーディーに運んでいって、早く、議員、議会目線じゃなくて、市民目線での広報特別委員会の活動ができるようになっていう方向でいってほしいんですけどね。委員長どうですかね。

森山喜久委員長 最初に大井委員が言われた前期のところで市議会モニターに対してアンケートを取らせていただいています。それを題材にして、5月15日号の議会だよりを含めて、そちらと一緒にアンケートをお送り

して意見を聞きたいというふうな方策がまず一つあると思います。それと並行して、合同で市議会モニターとの意見交換を行う場を設けることができないう話を広聴特別委員会にしていくのが2点目になるかと思っております。そういう形で一つは、市議会モニター宛てに議会だよりについてのアンケートを取っていく、そして2点目に広聴特別委員会と、できれば足並みをそろえて市議会モニターと意見交換を行うというふうに進めていきたいと思いますがどうでしょうか。

宮本政志委員 今の議論の流れを言うと、市議会モニターに議会だよりのことだけを聞くという流れじゃ駄目じゃないですか。議会だよりは議会だよりについても確かに、意見を聞くアンケートするのもいいんでしょうけども、やはり委員会に来ていただいて意見交換したり、議会だより以外の広報活動について、市議会モニターはどういうふうに見ておられてどういうふうな意見があるかって、そこじゃないかな。今の委員長の話でいくと、議会だよりについて市議会モニターにアンケートするって言うと、先ほどの大井委員の言われた正にそのとおりで、それだけのことですかって話になっちゃいかんで、やっぱり全体的なもの詰めて市議会モニターに投げんといけないと思います。議会だよりだけじゃないと思います。

森山喜久委員長 当初あったように市議会全体という形のアンケート内容ですかね。それとともに議会だよりも含めていくというふうな……（発言する者あり）前回、広聴特別委員会でアンケートした内容を全て覚えてないんで、ちょっとあれですけど、それを題材にしながら掘っていくという形を一つ求められているのかなと思っています。

大井淳一郎委員 そのときには、うちの担当はあくまでも議会だよりだけだったんですよ。議会だよりについての意見はいろいろありました。ちょっと詳細は覚えていませんが、今、宮本委員が言われるのは今後のことを考えるならばそれだけじゃなくて、広聴特別委員会やデジタル推進特別

委員会とかほかの特別委員会もあるんだから、それについてもやっていると。ただ、そうなるとうちの担当ではなくなるので、やはり意見交換の場所には、ほかの委員会も巻き込んでいかなきゃいけないでしょうね。だから、正に横の連携を取って、二つの委員会と連携を取って、全てを含めた形での意見交換をされるとよろしいかと思います。

森山喜久委員長 今、広聴特別委員会だけじゃなくてデジタル推進特別委員会の関係も含めて、当初からの議論にもありました三つの委員会の連携を取りながらという話になっていくと思いますので、そちらを含めて、進める方向を考えていきたいと思います。今日はこれ以上、時間も含めて議論できないかもしれないので、日を改めて、また、こっちの議論を再度していきたいと思いますので、日程調整をさせていただきたいんですが、それでもよろしいですか。この前話し合った件で、一つはFMスマイルウェブの原稿の確認と内容の確認を皆さんに事前に送付して、それを詰めていきたいというのが一つあります。あと、前回、市議会モニターに出したアンケートを確認してこういうふうなアンケートを前回しているというのを示しながら、その取捨選択しながら進めていくという形で……（発言する者あり）

宮本政志委員 少し事務局の意見も聞いていただきたいのもあるし、またこれ先送りになるんですよ。もう半年たつとるんです。広報特別委員会が始まる半年以上かな。従来の議会だより以外のことは全く議論もないし進んでいないの。これまた次につて言うんじゃないかと、委員会で今日決めることは、先ほど大井委員が言われたのは、実は一番理想的な形で、デジタル化推進特別委員会も広聴特別委員会も広報特別委員会も一緒になって市議会モニターとの意見交換ができる。これは確かに理想というか、一番私が望むところを、大井委員が言うてくれちゃったんやけど。それともう一つは、段取り、調整がうまくいかん、時間が掛かりそうであれば、広報特別委員会だけでも市議会モニターを呼んで、議会だより、そして議会だより以外の広報活動についての意見交換をしますかとか、あ

らかた今日それ決めんとやね。今議論はしたけど、何も決まらんまま「次回です」となると、また何か月たっても従来の議会だよりをずっと出すことだけで、広報特別委員会としては事足りていますっていう話になりますよ。だから、次回に持ち越すのであれば、ある程度今日、委員会で決めて、それについて次の委員会でってことにしてほしいですね。

森山喜久委員長 取りあえず、今の段階で事務局から、意見とか、こういうふうな段取りで進めたほうがいいのかというふうな意見はありますか。

大井淳一郎委員 事務局ではないんですが、先ほど私が言いましたのは三つの委員会が連携を取って、議会だよりのみならず、デジタル化推進特別委員会とかあるいはユーチューブのことも含めた意見交換をするのが理想なのですが、スピーディー感をより持たせるのであれば、宮本委員が言われるように、まずは議会だよりとか、職務としてはホームページまたフェイスブックページを閲覧するって、市議会モニターの職務にありますので、これらに絞って、我々だけでも意見交換はできるのかなと。だから、今日決めるのは横の連携が取られればそれがやはり理想なんだけれども、難しいようであれば、迅速なものが取れないのであれば、我々だけでも対応するというだけでも決めた方がいいんじゃないですか。以上です。

森山喜久委員長 今言われた部分は2点ですね。デジタル化推進特別委員会、広報特別委員会、広聴特別委員会で連携を取ってやっていく、若しくは広報特別委員会単独で、まず市議会モニターと意見交換をしていくという形になります。その前段でアンケートを取るかどうかというのはあるんでしょうけど、まず広報特別委員会として市議会モニターと意見交換はしていくというふうな——デジタル化推進特別委員会、広聴特別委員会、広報特別委員会が連携を取ってやっていくという2点について意見を頂きたいと思います。

奥良秀委員 あくまで、市議会モニターを呼んで意見交換会をするにしても、最初に市議会モニターが何で呼ばれたのかよく分からないようでは困りますので、やはり、ある程度、議会だよりであればどういった項目のアンケートみたいな質問内容をまずは事前に示してあげて、それをこちらで頂いてから話をどんどん進めていったほうが、より充実した会議になるのかなと思います。その辺はまた話合いをしていったほうがいいのかなと思います。

笹木慶之委員 話が堂々巡りしていますが、要は、前に進むためにどうしたらいいかということだと思っんですよね。今二つ案が出ましたが、ベストなのは、市として対応するということですから、それをまず3人の委員長で協議してください。（発言する者あり）市議会としてね。だから、それを協議してその方向性が見えんことには、次の選択肢がないじゃないですか。もしそれができなかつたら、広報特別委員会だけでもやるということで、それでいいと思いますよ。だからそれについては今、奥委員が言われたように、どういったことを調べるのかということをおあらかじめよく精査して、まずお願いしますと。そういう形で、順序立ててやっていかんと、大まかにまとめちゃっても、次の段階でまたゼロに戻るような形になりますから。だからもう一度言いますが、デジタル化推進特別委員会、広聴特別委員長とよく協議をして、市議会として対応していくという方向性が取れるのか取れないのか。取れなかつたら広報特別委員会として対応していくところだろうと思います。その両方で押ししてもらいたいと思いますね。以上です。

中岡英二委員 三つ委員会が集まれば一番理想ですけども、集まるのが無理であれば、当面は市議会モニターと広報特別委員会で話合いを持ったほうがいいと思います。その内容としても、議会だよりも大事かもしれないですけど、広報活動全体についても市議会モニターの意見があれば聞いて、その中で、議会だよりについては1項目だと思っんですよ。だからそういう気付きを聞ける、広報全体について市議会モニターの御意見

を聞ける機会を委員長、副委員長で調整を取りながら、そういう日程を決めて早急にやられたら、こういうことは進んでいくんじゃないかなと思います。以上です。

森山喜久委員長 では、取りあえず、デジタル化推進特別委員会、広聴特別委員会の委員長、副委員長、事務局を含めて、市議会として対応できるかどうかの協議をする場を早急に設けていきたいと思います。それとともに、もしそれがちょっとすぐ足並みをそろえられそうになかったら、広報特別委員会として市議会モニターに意見交換する場を設けていく、その市議会モニターに案内するときに、事前にアンケートなり、議会だよりを見られたことがない方もいらっしゃるかもしれませんから議会だよりを配布しながら、アンケートを頂きながら、意見交換する場を設けていくと。ちょっと2段階えになるかもしれませんが、その対応で進めていくということではよろしいでしょうか。

宮本政志委員 さっき奥委員が触れたけど、アンケートにあまり固執するとアンケートって作って、出して回収するまで物すごい時間が掛かる。その間には次の定例会始まってまた議会だよりの時期が来ますので、そこは先ほど委員長のアンケートと言っているんだけど、そこと、スピード感というのをまたちょっと分けて考えないといかんと思いますけどね。

大井淳一郎委員 ですので、奥委員、宮本委員が言われるように、意見交換するときはどういうことについて協議したいってことをあらかじめ伝えてあげたらどうですか。そのためには、この議会だよりとかホームページとかフェイスブックとか見ちゃってくださいっていうことになると思いますんで、項目をある程度示してくださいと。そのための一つの参考になるのが、改選前に広聴特別委員会が取られた議会報告会に関するアンケートで、これも一つの材料にはなるんですね。それはあくまでも、そのときに取った手法なんで、アンケートをしてほしいという意味で言ったわけじゃないんですね。その辺は市議会モニターがしっかりと言われ

ると思います。

森山喜久委員長 取りあえず、デジタル化推進特別委員会と広聴特別委員会と三者で協議を設定させていただいて、協議経過含めて、市議会全体としての意見交換なのか、広報特別委員会としての意見交換なのか、ちょっとそこが、三者の協議によってはっきりしてくると思います。まずは三者で協議していく、確認させていただきたいと思います。それを受けて、また市議会モニターとの意見交換です。できれば、9月の定例会前にそういった場を設けるように進めていきたいと思いますが、よろしいですかね。（発言する者あり）9月定例会が始まる前にその市議会モニターとの意見交換を含めて、市議会全体か広報特別委員会としてか。どちらかを進めていく方向性でいきたいと思いますので、御協力をよろしくお願いします。

大井淳一朗委員 先ほど、FMの原稿がどうなんかとあったでしょう。だからそのことをやらないといけないし、先ほど委員長が言われた協議結果、あるいは今後、広報特別委員会だけでやるのか、3委員会が協調してやるのかというのも含めた方向性を示す場を、やはり、やらないといけないと思うので、盆明け早々か、盆前か、日程調整したほうがよろしいかと思います。今、メンバーが集まっていますので。

森山喜久委員長 来週いっぱいまでに三者の協議をしていきたいと思います。8日、9日、10日であればFMスマイルウェブ間に合うよね。（発言する者あり）8月9日火曜日の午前中は、皆さんどうですか。事務局は9日大丈夫ですか。（発言する者あり）10時でいいですかね。次の広報特別委員会を開催したいと思いますが、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）以上をもちまして、広報特別委員会を終わります。お疲れ様でした。

---

午後 0 時 5 分 散会

---

令和 4 年（2022 年） 7 月 2 6 日

広報特別委員長 森 山 喜 久